

平成 30 年 5 月 21 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K13199

研究課題名(和文)子育て支援「業界」の実証的研究 - 新制度論による定量的・定性的分析 -

研究課題名(英文)Empirical study of child care support "industry" - Quantitative and qualitative analysis by neo-institutionalism theory -

研究代表者

橋本 鉦市 (HASHIMOTO, Koichi)

東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・教授

研究者番号：40260509

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、近年になって新たに成立・展開してきた「子育て支援」という領域について、これを制度的な「組織フィールド」(＝「業界」)として捉え、なぜこのような業界が成立してきたのか、この業界はどのようなアクターによって構成されたそのロジック・戦略はどのようなものか、アクターごとの領域(管轄権)をめぐる関係性はどのようなものかという課題について、行政文書・メディアなどを対象とした計量テキスト分析、各アクターへのインタビュー、ネットワーク分析などの定量的・定性的な手法から分析を試み、教育・福祉・医療・心理など既存の領域が交差するメカニズムの一端を解明することを目的とした。

研究成果の概要(英文)：With regard to child care support industry, we analyzed the generation mechanism, institutional logic and strategy, and the relationship of actors on jurisdiction by neo-institutionalism theory. In addition to discussions at the national level, we focused on the actual situation survey at the regional level such as urban areas in Yamagata Prefecture and so on. We analyzed content of policy discussion, administrative documents and texts of newspaper articles and extracted issues and actors involved in child care support. We conducted a qualitative survey with semi-structured interviews on each actor and tried to examine their logic and strategy using TEM/TEA. In addition, we examined their networks from the discourse, logic and strategy of each actor.

研究分野：高等教育の社会学

キーワード：子育て支援 業界 新制度派組織論

1. 研究開始当初の背景

本研究は、近年になって新たに成立・展開してきた「子育て支援」という領域について、これを制度的な「組織フィールド」(=「業界」)として捉え、なぜこのような業界が成立してきたのか、この業界はどのようなアクターによって構成されまたそのロジック・戦略はどのようなものか、アクターごとの領域(管轄権)をめぐる関係性はどのようなものかという課題について、行政文書・メディアなどを対象とした計量テキスト分析、各アクターへのインタビュー、ネットワーク分析などの定量的・定性的な手法から分析を試み、教育・福祉・医療・心理など既存の領域が交差するメカニズムの一端を解明することを目的とした。すなわち本研究は、新たに成立しつつある業界を分析対象として取り上げ、またそれをこれまでほとんど実証分析に援用されてこなかった(新)制度学派を中心とした視座と方法論から考察することを試みたものである。

さて近年、チャイルドマインダー、保育ママ等の子育て支援関連資格が増えており、それに従事しようとする人材も投入されてきている。また子育て支援に関連する企業や、それらを統括する協議会(日本チャイルドマインダー協会、家庭的保育全国連絡協議会)などの設立も相次いでいる。さらに文部科学省、厚生労働省、内閣府などの諸官庁は、子育てに対する行政的対応を埋めるためこうした動向に期待しているようである。つまり、正規の小学校・幼稚園・保育所・子ども園などの外部に、「教育」「福祉」「医療」「心理」といった既存の専門領域がそれぞれ乗り入れる形で「子育て支援」という領域が立ち上がりつつあると言えよう。これまでも、支援に関わる個人のニーズ(子育て経験を生かし、ジェンダー規範に沿った自己実現として子育てを支援する)や、行政サービスの役割補完(文部科学省、厚生労働省などのアウトリーチ)などについて、いくつかの研究は散見されるが、個別アクターごとの考察がほとんどであり、アクター「間」ならびにその「内部」での分析が十分ではなく、この領域が持つ機能と構造を全体的・包括的に理解する必要があると考えたのである。

2. 研究の目的

そこで本研究では、この領域を(新)制度論的な視点から新たに生成した「業界」(組織フィールド)と捉え、そこに様々な既存領域のアクター群が参入して、発展と変容が続く領域としてその全体的な分析を試みることにした。

この「業界」という枠組みは、DiMaggio & Powell (1983)による。彼らは、「組織フィールド」(=業界)という概念を編み出し、法律や規制、常識や慣習、世界観、価値観やルールといった広い意味での制度の文化的・認知的側面に着目した。「業界」は構造化

された社会的位置のシステムであり、そこで資源、利益、アクセスを巡った争いを生起させるが、ある業界ができあがるには一定のプロセスが存在する。組織間同士の相互作用の度合いや頻度が増し、そこで行き交う情報量もそれにしたがって増大するとともに、その一方で次第に組織間の中で「中心と周縁」の構造が立ち上がり、組織とそれ以外の境界が認識されるようになって、構成員(アクター)の間に一定の共通認識が形成されてくる、というプロセスである。そしてその結果、構成員から自明で正当と認識されるマクロレベルでの文化=制度に、アクターの行動も大きな制約や圧力を受けるのである。しかし勃興する業界では、成熟した業界と異なり、諸アクターはある程度共通の利益への認識があるが協調的な行動が取られることは少なく、重要な役割を果たすのは「制度的企業家」(institutional entrepreneur)であり、彼らの「ロジック」(支配的な信念体系とそれに関連した実践)やアクターの「戦略」(制度・環境・資源への対応)が重要なポイントとなる。

したがって、新たに立ち上がりつつある業界を理解するためには、その生成の契機とプロセス、参入するアクターのロジックと戦略、アクター間・内部の競争・葛藤とネットワーク化が重要な分析課題となる。しかし、これらに着目した新制度論的な立場からの実証的な研究は、実は国内外ともに限られ、特に地域レベルでの研究は皆無に近い。本研究は、この子育て支援領域を新興業界として定義し、上記のような新制度学派からのアプローチによって、特に特定地域をケースとした実証分析を目指した。

また本研究では、それぞれの論点に関して、業界としての制度化過程については、とくに業界を牽引する「制度的企業家」の役割に着目し、そのロジックと戦略的対応では、各アクターの共通認識と相互のズレを焦点化した。またその管轄権をめぐる競争・葛藤については、新しく設けられた各種の関連資格を中心とした各アクターを中心に分析を試みた。

3. 研究の方法

本研究では、子育て支援業界の生成メカニズムと特有のロジック・戦略、さらには管轄権をめぐるアクター群の関係性を解明するため、上記のような3つの研究課題を設定し、全国レベルでの議論と並行して地域レベルでの実態調査を中心に、定量的・定性的な手法を相補的に組み合わせることで解明を進めた。

すなわち、公式の政策・行政文書(国会会議録など)、新聞記事などをテキスト化し、さらにKH Coderなどのソフトを使ってその内容分析からイシューとアクターの抽出について計量テキスト分析を行い、業界における政策課題の生成プロセスをトレースした、各アクターへの半構造化インタビューに

よる質的調査によって、TEM/TEA（複線経路・等至性モデル・アプローチ）によって、彼ら（特に最も影響力の大きい制度的企業家）の有するロジックと戦略の析出を試みた。

これと並行して、各アクターの言説・ロジック・戦略から、それら相互ならびにそれぞれ内部の関係性を解明するネットワークを考察した。また調査対象とした地域は、福島市、山形県内の都市部（X市、鶴岡市）、横浜市である。具体的に福島・山形などで析出された「アクター」は、以下のとおりである。「こども緊急サポートネットワークふくしま」（福島市）、「NPO法人I」（本宮市市）、「NPO法人N」（山形県X市）、「NPO法人明日のたね」（山形県鶴岡市）このほかに、「子ども・子育て会議」に参加する委員は地域における重要なアクターであった。その他、他のNPO団体、子育て支援行政、及び彼らが担当する「ファミリー・サポート・センター」・「子育て支援センター」等の事業、母親たちによる「子育てサークル」（X市8、福島市48）、民営の遊び場（福島市）等も子育て支援業界を構成するアクターとしてあげられる。

また、子育て支援サービス従事者へ資格付与をおこなうアクターとしては、「一般社団法人全国病児保育協議会」（認定病児保育専門士資格）、「公益社団法人全国保育サービス協会」（認定ベビーシッター資格）、「子育て広場全国連絡協議会」（子育て支援コーディネーター、地域子育て支援士二種）などであった。

さらに、子育て支援業界と密接な業界として保育業界、幼稚園業界、病院業界、教育産業界がある。保育業界では、延長・土曜保育（X市・福島市）、子育て支援センター（X市・福島市）、幼稚園業界では、預かり保育（X市・福島市）、子育て支援クラス（X市・福島市）、病院業界では、病児保育（X市）、病後児保育（福島市）、教育産業業界では、習い事が可能な園（X市）、塾による民間学童（X市）その他、学童保育のNPO（X市）などがみられ、子育て支援業界の各アクターとの密度・同型化の度合いが重要な視点として分析を進めた。

4. 研究成果

本研究は、上記の～の論点について以下の分析手法によって解明を進めたが、学術的な貢献としては大きく次の3点にまとめられる。

新制度論に依拠した教育分野への実証的研究

これまで教育分野では、Meyerらの議論を踏まえ、学校・学級での脱連結、チャーターなどの概念を中心とした実証研究が多少なりとも蓄積されてきたものの、DiMaggio & Powell (1983)以降の新制度学派の新たな概念装置と、その豊穡な成果を実証分析に援用

した研究は極めて限られてきた。本研究は、教育分野における新たな業界の出現に、これらの理論的な枠組みと装置を利用しつつ、その構造分析を試みた。

中央レベルではなく地域レベルでの比較分析

新制度論を援用した実証分析は限られており、出版界などをはじめとしたケーススタディなどが蓄積されてきているものの、そのほとんどは中央レベルでの業界研究であった。勃興しつつある業界のプロセス、アクターのネットワーク化などを実証的に分析するには一定の地域的な境界設定が必要であり、同時にそれぞれの地域がもつリソース（依存）、歴史的な制約（経路依存性）、権力構造などを視野に入れた分析が必要であるが、本研究はこれらの課題を踏まえて、様々な地域をケースとした比較・実証研究を試みた。

定量的・定性的手法を組み合わせた分析方法論の適用

新制度論という理論的枠組みに依拠するものの、適切な分析手法を用いなければ十分な研究成果は得られないが、本研究では計量テキスト分析やTEM/TEAなど、新たな定量的・定性的な手法を援用し、それぞれの方法論が持つメリットと限界を実証的に検証できた。

以上のように、本研究は新たな分析対象を新制度派の視座から再定義し直し、実証的な方法論を援用・活用したという点で、教育領域に対する総合的な社会科学的分析の端緒と位置づけられるが、本研究で得られた知見を踏まえて、今後はさらに他の地域や業界との比較を通して、モデルの精緻化と方法論の洗練を進めていきたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計12件)

白旗希実子「『子育て支援』領域におけるNPOの設立・維持プロセス 複線経路・等至性アプローチによる分析の試み」『東北公益文科大学総合研究論集』31号、2016年、pp.33-52.

石井美和「『子育て支援』に関する信念の形成過程 - 複線経路・等至性モデルによる分析の試み - 」『桜の聖母短期大学紀要』第40号、2016年3月、pp.133-150.

白旗希実子「山形県の『子育て支援』関連施策の経緯」『子育て支援「業界」の実証的研究 新制度論による定量的・定性的分析 最終報告』（研究代表者：橋本鉦市、2015～2017年度 科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究 最終成果報告書）2018年、pp.63-72.

白旗希実子「放課後児童クラブの設立過程

と差異化 保護者との関係に着目して」
同上、2018年、pp.91-100.

白旗希実子「“お互い様とおかげさま”の
子育て支援 NPO法人「明日のたね」の活
動」同上、2018年、pp.101-107.

白旗希実子「港北区地域子育て支援拠点
「どろっぶ」の活動」同上、2018、pp.
109-118.

石井美和「子育て支援政策の変遷」同上、
2018年3月、pp. 5-12.

石井美和「福島県における子育て支援組織
と制度的企業家」同上、2018年3月、pp.
137-141.

小原明恵「フィールド概念の定義・研究関
心の変遷」同上、2018年3月、pp. 35-48.

橋本鉦市「『子育て支援』の政策課題の生
成と変容 - 国会会議録を分析対象として -」
同上、2018年3月、pp. 13-24.

橋本鉦市「平成期における『子育て支援』
の新聞報道記事の計量テキスト分析」同上、
2018年3月、pp. 25-34.

石井美和「子育て支援における組織フィー
ルドの形成 - 全国組織の成立に着目して -」
『東北文教大学・短期大学部紀要』第8号、
2018年3月、pp. 95-107.

〔学会発表〕(計1件)

白旗希実子「放課後児童クラブの設立過程
と現状」東北教育学会第74回大会、2017年.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橋本 鉦市 (HASHIMOTO, Koichi)
東京大学大学院・教育学研究科・教授
研究者番号：40260509

(2) 研究分担者

白旗 希実子 (SHIRAHATA, Kimiko)
東北公益文科大学・公益学部・講師
研究者番号：10735658

石井 美和 (ISHII, Miwa)
東北文教大学短期大学部・子ども学科・講
師
研究者番号：90713206

(3) 連携研究者

丸山 和昭 (MARUYAMA, Kazuaki)
名古屋大学・高等教育研究センター・准教
授
研究者番号：20582886

(4) 研究協力者

小原 明恵 (KOBARU, Akie)
東京大学大学院・教育学研究科・博士課程